

②腫瘍崩壊症候群（しゅようほうかいしょうこうぐん）について知る

白血病や悪性リンパ腫などの血液癌は、他の癌と比べて、抗がん剤や放射線療法によく効くことに加えて骨髄や血液の中に癌細胞が存在することが多いのが特徴です。癌細胞の中には痛風の原因物質で知られる「尿酸」をはじめとして、カリウム、リン、乳酸など過剰に蓄積すると身体を傷害する物質が大量に含まれており、これらが血液の中で急激に破壊されると、一気に血液中の濃度が上昇し、様々な合併症が起こるのです。具体的に問題になるのは尿酸やリンが上昇することによる「急性腎不全」や電解質異常に伴う不整脈やけいれん発作です。



ラスリテックというお薬を投与された患者様は心当たりあるかと思います。この中でも最も問題となるのは腎不全で、これを予防および治療することが極めて重要となります。予防および治療法は、大量点滴をすることと、尿酸を蓄積させないことです。尿酸を蓄積させないためには、尿酸を作らせないことと、積極的に分解させる方法があります。前者は内服薬で「フェブリク[®]」と呼び、軽めの例において投与されます。危険性が高いと判断した場合には「ラスリテック[®]」を点滴します。当科でも腫瘍崩壊症候群の危険が高いと判断した場合は積極的にラスリテック[®]を投与しています。本薬剤は非常に有効な薬なのですが、非常に高価であるため、当科では少しでも患者様の負担を少なくするべく、より少ない量（体重あたり0.05-0.1mg）で、より短期間（2-3日間）のラスリテック[®]投与を行っています。これにより通常量の20%未満の価格で、有効率を下げずに治療できております。本法は、当院の治験審査委員会承認されたうえで行っており、2014年度、日本臨床腫瘍学会学術集会で発表いたしました。